

平成二十九年

新年のごあいさつ



松浦市長
友広 郁洋

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は、4月に熊本を中心に大きな地震が発生し、尊い命が奪われるとともに多くの皆様が被災され、今なお不自由な生活を強いられています。改めて衷心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

そのような中、松浦市においては、1月に市民が待望していた九州電力株式会社松浦発電所2号機の建設が再開されるとともに、6月に東部工業団地に中興化成工業株式会社、8月に福島町平野工業団地に大山工業株式会社などの企業進出が決定しました。一方で、これら企業活動も支えることとなる交通基盤として西九州自動車道の整備が順調に進んでおり、11月に「松浦佐々道路」の着工式も執り行われました。また、昨年は、10月に高齢者のスポーツと文化の祭典であります第29回

全国健康福祉祭ながさき大会ねんりんピック長崎2016が長崎県で開催されました。松浦市ではバウンドテニス競技が行われ、市民皆様のご協力により盛会のうちに終了できましたことを大変嬉しく思うと同時に心より感謝申し上げます。

さて、新しい年は、昨年に引き続き国や民間企業による大型事業の進捗が図られることに加え、市が行う松浦魚市場の再整備事業が本格化します。また、6月末には福島中学校の新校舎が完成する予定であり、鷹島地区においては、海底遺跡では国内初となる国史跡「鷹島神崎遺跡」を活用して水中考古学の研究、普及、啓発などを行う「松浦市立水中考古学研究センター」を4月に設置することとしております。企業活動としては、昨年、進出が決まりました東部工業団地や平野工業団地において操業開始が予定されており、新たな雇用の創出が期待されております。

さらに、島の活性化のため島民自ら一丸となって立ち上げた「一般社団法人青島〇」は、水産業の振興にも繋がるものであり、市としても出来る限りの支援をしたいと考えております。

また、多くの市民が待望する地域医療機能推進機構（JCHO）の松浦市での病院建設について、その実現に向けて全力を傾注してまいります。

本年も、課題山積みの一年となりますが、市民の皆様と一緒に市最大の課題である人口減少の克服に立ち向かい、「住みたいまち・住み続けたいまち 松浦」の実現を目指してまいります。

結びに、本年が市民お一人お一人にとりまして、素晴らしい年となりますよう祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。





松浦市議会議長
高橋 勝幸

明けましておめでとうございます。
市民の皆様には、輝かしい平成29年の新春を健やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、市議会に対し、日頃からご理解とご支援を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

昨年は、本市の重要課題であります九州電力株式会社松浦発電所2号機の建設工事が本格的に再開され、併せて西九州自動車道の今福と調川間トンネルが全て貫通し、30年度に予定される松浦インターチェンジまでの開通も大きく進捗いたしました。市と市議会が長年取り組んでまいりましたこの発電所建設と高速道路網整備の実現は、今後の市勢進展に大いに寄与するものと期待しております。

また、10月に開催された第29回全国健康福祉祭がさき大会ねんりんピック長崎2016では、バウンドテニスの開催地として全国から約300人の方をお迎えし、本市ならではのおもてなしで松浦の良さをお伝えすることができ、充実したスポーツの祭典が開催できましたことをうれしく思います。関係者皆様のご支援ご協力に感謝いたします。

さて、本市の重要施策が進展しているといいながらも長期的な市政運営を展望すると、全国的な少子高齢化の進行と地方経済の伸び悩みなどから、本市を取り巻く状況は依然として厳しいものがあります。これからの地域医療の充実、母子福祉の拡充、地場産業の振興や学校教育における学力向上など、市政全般にわたって多くの課題が山積しています。市議会といたしましても行政と力を合わせて、これらの課題克服に取り組む、住みよいまちづくりが実現できるよう市議会一丸となって専心努力してまいります。

市民の皆様からも忌憚のないご意見、ご提言を市議会にお寄せいただければと思っております。

結びに、新しい年が市民皆様と松浦市にとりまして実り多き一年となりますことを心から祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。



オーストラリア・マッカイ市長
グレッグ・ウイリアムソン

松浦市民の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、マッカイ市にとりましてコミュニティ再建の年であり、多忙ながらも活気に満ちた年でした。友広市長様をはじめ9人の市民の皆様をマッカイ市にお迎えし、両市と両市民の間に特別な絆があることを確信することができました。さらに、松浦市から中学生・高校生14人がマッカイ市を訪問し、マッカイ市からは8人の生徒が松浦を訪問しました。この青年の交流は、両市の絆を強くする重要な役割を担っています。

私は、1993年に当時のマッカイ市長として妻とともに松浦市を訪問したことがあります。私たちはその時に松浦市民の皆様が大変歓迎していただいたことを今でも覚えています。その時から23年が過ぎましたが、時を経て私たちの姉妹都市関係が強くなっていることが分かり、うれしく思います。

私たちは松浦市民の皆様お一人お一人を歓迎したいと思っておりますので、ぜひマッカイ市にお越しください。

マッカイ市とマッカイ市民は、松浦市民の皆様が健康で喜びと繁栄に満ちた2017年をお過ごしになられることを心からお祈りいたします。